

R I 2 6 6 0 地区 I M 第 7 組 ロータリー・デー 報告

平成29年3月18日、リーガロイヤルNCB 松の間におきまして、第2660地区ガバナー主催、大阪南ロータリークラブがホストとしてIM第7組ロータリー・デーが開催されました。当日は7組内全9クラブ、200名を超える会員の皆様にご登録をいただきました。

はじめに、松本進也ガバナーより、参加者の皆様に主催者を代表してご挨拶をいただきました。続いてホストクラブを代表して小倉宏之会長より、歓迎のご挨拶をいただきました。

今回のロータリー・デーは、テーマを「そこにある命・より深く生きるために」と題し、基調講演には大阪市立総合医療センター副院長・小児血液腫瘍科・一般社団法人こどものホスピスプロジェクト 副理事長の原純一先生から「より深く生きる 医療の現場から」というタイトルで、全国にいる重度の小児がん患者の現状や、医療現場での対応、また、その後の児童の生活や家族の現状などを約1時間にわたり詳しくお話をいただきました。

続いてコーヒブレイクに入りましたが、その中で、基調講演を受けて、我々ロータリアンとして終末期の児童やそのご家族に対し、できることは何か、どのようなニーズがあるかなどをお話しいただくようお願いいたしました。この問題は決して他人事ではなく、必ず身近にそのような境遇の方がいらっしゃる、また、将来同じような状況に陥ることがあるかも知れないという切実なことであるということをご理解いただくような時間といたしました。

次に本会議として、TSURUMI こどもホスピス事務局長。NPO 運営コンサルに取り組んでいた折に、CHP の取り組みに出会い、地域社会で子どもが大切にされるコミュニティづくりに共感し関わることに。開業とともに、現職に就かれている、水谷綾氏をコーディネータとしてお迎えし、パネリストには基調講演をお願いした、原純一先生、TSURUMI こどもホスピス代表理事。重い病気をもつ子どもの親として、病気をもつ子どもや家族が気軽に集い安らげる場の必要性を感じ、当法人を結成した。(株)ワン・トゥー・テン・ホールディングス代表取締役専務の高場秀樹さん、娘が幼少期に脳腫瘍、小学5年生時に白血病を発症。入院時に子どものホスピスプロジェクトに出会い、TSURUMI こどもホスピス開設前からプログラムに関わる。現在、TSURUMI こどもホスピスメンバーの北東恭子さん、大阪南ローターアクト会長で、初めてこどもホスピスに係り、事業の中で子供たちと直接触れ合い問題意識に直面した実感をもつ、前田優貴子さん、そして当クラブ社会奉仕担当理事の中村剛さんの5名をお願いをしてパネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッションでは、水谷さんの進行で、各パネリストにそれぞれの立場での取り組みについてお話をいただきました。はじめに高場さんから、TURUMI こどもホスピスの成り立ちや現状、運営の説明をいただき、北東さんから、実際にお子様との生活の中で現在、不足していることや、希望を伺いました。前田さんからは、昨年、当クラブの社会奉仕事業でこどもホスピスに行った際、体験したことや感じたこと、RACとして取り組む事の可能性などをお話いただきました。また、中村さんからは、実際に社会奉仕事業を行った結果、児童の置かれている環境や、こどもホスピスの運営において将来、何が必要なのか、ロータリークラブ、またロータリアンとして何ができるのかなどお話しいただき、原先生からは、医療を超えたところにある、終末期の児童とそのご家族に必要なものをご説明いただきました。

内容として、大変重いものではありませんでしたが、そこには確実にニーズが存在し、我々ロータリアンとして取り組むべき課題が存在しているということを理解できました。この問題は我々が一方的に奉仕するだけではなく、いつ我々に、また我々の家族や周囲の方々にかかるかもしれないという観点から、松本ガバナーが提唱されている相互的奉仕であり、さらに大阪南ロータリークラブが掲げる本年度のテーマ、「和合で明るく有意義に」にそった、ロータリー・デーとなりました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。